





# 東北大学における動的風試の試み

# 浅井圭介, 沼田大樹, 姜 欣, 安孫子聡子 DWTチーム(東北大学)

### 平成24年12月10日 東北大学 流体科学研究所 1号館会議室

## 高迎角飛行(Wing Rock & Dynamic Stall)

#### F-18 High Alpha Research Vehicle (HARV)







- 高迎角飛行 Wing Rock, Dynamic Lift
- ポストストールマニューバ
   従来の微小じょう乱理論に基づく
   飛行安定性解析では扱えない

### ◆非線形飛行力学の必要性

- ・安定微係数の周波数依存性
- ・大振幅運動の取り扱い
- 非定常空気力

「動的風洞試験」
 Dynamic WT Testing [DWT]
 による運動シミレーションと
 非定常空気力の測定



(NASA F/A-18 HARV)



# 背景(2)一動的風洞実験(DWT)

- ◆線形領域におけるDWT(従来)
  - Pitch, Yaw, Rollの1自由度運動+微小振幅における強制加振試験
- ◆ 非線形領域におけるDWT
  - 極限的な飛行領域では運動は基本的に多自由度
     Rolling/Yawing, Pitching/Heavingなどを組み合わせた運動
  - ・空気力の<br />
    周波数や振幅に対する依存性を評価

### 多自由度のロボットを利用した動的風洞試験が有効

(例)

- ・鳥取大:リンク機構
- DLR/DNW:直動パラレル機構
   "Model Positioning Mechanism (MPM)"



鳥取大

DLR/DNW

目的

後退角80度のデルタ翼の高迎角における動的安定性 に対する2自由度運動の影響をロボットマニピュレータ を用いて調べる。

- 多関節のシリアル型ロボットマニピュレータ
- 2つの異なるモードの2自由度運動
  - RollingとYawingが組み合わさった横方向の運動
  - PitchingとHeavingの組み合わさった縦方向の運動
- ●測定項目
  - 空気力(天秤)
- 圧力分布(感圧塗料 [PSP])
- 流れの可視化(Laser Light Sheet)



### ◆汎用型知能アーム PA10 (三菱重工業)

機構 :シリアル機構(開ループ)
自由度 :7
最大動作速度:2π[rad/s](W2モータ)
:1[rad/s](S1モータ)
負荷許容値:トルク 9.8[N・m]
指令値 :速度指令,モータトルク指令
制御性能:速度変動率1%以内

◆力覚センサ (ニッタ製)

6分力センサ ローリングモーメント定格:12.5[Nm] 垂直力定格:200[N] 分解能:14 [bit] 支持スティングの根元に設置



0





### ◆東北大学低乱熱伝達風洞

型式	•	単路回流型
測定部	•	開放型
ノズル対辺距離	•	0.81[m]
風速	•	5~70[m/s]





後退角	: 80 [deg]
リード	: 300[mm]
厚さ	:2[mm]
前縁形状	: 45 deg sharp edge
材質	: A2017(ジュラルミン)
質量	: 160[g]

:160[g]



# 2DoF加振 (Rolling+Yawing)





1-DoF













# 2DoF加振 (Pitching+Heaving)



➢ Pitching + Heaving (上下運動)



Pitching angle



Heaving angle

Z 1



 $z = -\Delta z \cos(2\pi f t)$ 

# 2DoF加振 (Pitching+Heaving)



■ Pitching運動:迎角とピッチ角がともに変化
 ■ Heaving運動:迎角のみの変化
 ■ 2DoF運動:ピッチ角のみの変化
 → 辺角の変化率とピッチレートの
 ■ 2DoF運動:ピッチ角のみの変化

効果が<u>分離</u>できる





### ◆Rolling/Yawing加振

	1-DoF	2-DoF	
振動方法	Roll	Roll + Yaw	
迎角 $\alpha$ [deg]	25~35		
<b>流速</b> U[m/s]	20~30		
<b>周波数</b> <i>f</i> [Hz]	0.1~1		
無次元周波数 k	0.001~0.015		
Roll振幅⊿ø[deg]	30 (5, 10 for <i>α</i> =35)	30	
Yaw振幅⊿β[deg]	0	5	
位相差 [rad]		$\pi/2$	



• 無次元周波数





- ●非定常圧力分布の可視化(感圧塗料(PSP))
- はく離渦の可視化(Laser Light Sheet)

風速U=2m/sとして無次元周波数kを合わせる(k=0.01)

※前縁が尖ったデルタ翼では、レイノルズ数の影響は顕著ではない。



### ◆Pitching/Heaving加振

加炬士注	1-DoF		2-DoF
加振力法	Pitch	Heave	Pitch+Heave
中心迎角 $\alpha_0 \deg$	30,38		
無次元周波数 k	0.024, 0.036		
Pitch振幅 $\Delta \alpha \deg$	3	0	3
Heave振幅 △z mm	0	70,104	70,104
有効迎角 $\alpha_{eff}$ deg	3	3	0
位相差	0		$\pi/2$



• 無次元周波数



*f* ;振動数 ℓ ;代表長 *U*;主流速度



前传卡注	Sweep		
加派力运	Upstroke	Downstroke	
迎角 $\alpha \deg$	-5~45	45~-5	
<b>流速</b> U m/s	7.5	7.5	



## Rolling Momentに対する迎角の影響

□ール振幅: Δφ = 30 deg, ヨー振幅: Δβ = 5 deg, 無次元周波数: k = 0.01 (f = 1 Hz)



※ 破線:純粋なロール運動(1自由度)の場合

迎角30度以下と迎角35度以上でモードが変わる
 30度以下では時計回りのループ→流れから模型にエネルギーが供給
 35度以上ではロール角が大きいところでループが反転する→エネルギーが散逸

# PSPによる圧力分布の可視化(1自由度) (α=35deg, Δφ=20deg, k=0.01)



# レーザライトシート可視化:1自由度の場合 (α=35deg, Δφ=30deg, k=0.01)





# レーザライトシート可視化:2自由度の場合 (α=35deg, Δφ=30deg, β=5deg, k=0.01)



※ レーザー照射位置*x/c*=1

## Rolling Momentの時間履歴への影響

 $\alpha$ =35 deg,  $\Delta \varphi$  = 30 deg,  $\Delta \beta$  = 5 deg, k = 0.01 (f = 1 Hz)



t/T=0.1:
 1-DoFでは右翼の前縁はく離渦が崩壊
 2-DoFでは生じていない

• t/T=0.2,0.4:

2-DoFの方が左翼のはく離渦の遊離が小さい

2自由度では、前縁はく離渦が模型の運動に追従 するのに若干の時間遅れが生じている









Upstroke時において迎角38deg付近で失速が起こる
 UpstrokeとDownstrokeでヒステリシスが発生する

## 非定常計測結果(1 DoF vs 2 DoF)





● 1自由度のHeavingでは1自由度のPitchingと同様の傾向が発生

- 2自由度はピッチ角に依存せず, 垂直力がほぼ一定
  - $C_N = 0.87(\alpha_0 = 30 \text{ deg}), C_N = 0.98(\alpha_0 = 38 \text{ deg})$ の状態を維持



## 非定常計測結果(1 DoF vs 2 DoF)





▶ 1自由度のヒーブでは1自由度のピッチと同様の傾向が発生

- 2自由度はピッチ角に依存せず、ピッチングモーメントがほぼ一定
  - $C_M$ =-0.1( $\alpha_0$ =30 deg),  $C_M$ =-0.13( $\alpha_0$ =38 deg)の状態を維持



多自由度ロボットマニピュレータを用いて,デルタ翼の高迎角における動的特性に対する自由度の影響を実験的に調べた.

- ・ ロール/ヨー振動ではヨー運動が渦崩壊の発生を遅らせる効果をもち、 ローリングモーメントの変化に時間遅れが生じることがわかった。
- 運動する模型の場合でも、Polhumsによるデルタ翼流れの分類法は 適用できることがわかった
- ピッチ/ヒーブ振動では、非定常空気力に対するピッチ速度の影響は 本実験の範囲内では無視できることがわかった。
- ロボットマニピュレータは動的風洞試験の有効なツールとなり得る。
   しかし、本実験で用いたシリアル型のマニピュレータは周波数と振幅の範囲に限界がある。

ト パラレルリンク機構を用いた多自由度ロボットの利用

#### DNW-NWB (Braunschweig) における動的風洞試験

#### 1<sup>st</sup> Generation

#### 2<sup>nd</sup> Generation

#### **3<sup>rd</sup> Generation**



aerodynamics of unsteady moving aircraft" Progress in Aerospace Sciences 44 (2008)

# Visit to DNW-NWB in Braunschweig (2009.9.4)



#### **DNW-NWB**



- atmospheric
  closed, slotted or open
- 3.25m x 2.80m
- max 70m/s (85 m/s)





Entrance





#### MPM

power supply

controller

Dr. Tomas Löser

#### 



Asai, Nagai, Konno (2010)

## ロボットマニピュレータ(動作可能範囲, Roll運動)



## Hybrid Motion Simulator HEXA 97 (Uchiyama/Konno Lab., Tohoku Univ.)

# Hybrid Motion Simulator HEXA97

## HEXA Robot for Hybrid Simulation(2012)



# Hybrid Simulation (First Trial)

1[Hz] 振幅60[deg] リミットサイクルに陥る

トルクセンサの位相進み補償 を加える → 約2 Hz

(Free Roll) 3.2[Hz] 振幅34[deg]







### 0.3-m Magnetic Suspension and Balance System (Tohoku Univ.) Acquired from IHI (2011.7)





Capacity Drag: 1[N] Lift: 10 [N] Side F: 1[N]





第1図 磁力支持天びん装置概要

# Fin